

令和7年度 第2回羽島市特別支援教育連携協議会 (会議要旨)

日 時	令和8年3月5日(木) 午後2時00分～午後2時45分	
場 所	福祉ふれあい会館 地域ふれあいスペース	
出席者	<p>【出席委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校校長会を代表する者 ・特別支援コーディネーターを代表する者 ・羽島市特別支援教育助成会を代表する者 ・学識経験者 ・学識経験者 ・羽島市医師会代表 ・中央子ども相談センター代表 ・羽島市健福祉部次長兼福祉課長 ・羽島市健幸課健幸担当課長 ・羽島市内保育園及び幼稚園を代表する者 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会事務局を代表する者 ・発達支援センター代表 ・羽島特別支援学校代表 ・羽島市手をつなぐ親の会代表 ・西部幼稚園長 ・教育委員会事務局を代表する者 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育課特別支援教育係長 <p>【欠席】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1名
内 容	<p>1 あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 羽島市特別支援教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の羽島市特別支援教育の重点について ・来年度の取組について <p>(2) 令和7年度会計報告・令和8年度会務会計計画(案)について</p> <p>3 ご指導</p>	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・早期からの一環した支援体制について <ul style="list-style-type: none"> →個別の教育支援計画や指導計画を引き継ぐことはとても大切である。 →個別の教育支援計画を作ることが目的ではなく、活用することが目的となるようにしたい。有効に使っていくようにしたい。 ・児童生徒の学びの場の充実について <ul style="list-style-type: none"> →個々の実態に合わせた学びの場については、柔軟さが必要である。 →実態に合った学びの場を決めるだけでなく、一人一人にあった学び方や学びの支援の工夫が必要である。個の実態に合わせた学びの場を考えていくことが大切である。 ・教員の指導力の向上について <ul style="list-style-type: none"> →これまでは、「特別」という言葉を使うことで、個に応じた教育がなされるようになってきた。しかし、この「特別な」支援が「当たり前」の支援になることを目標としていきたい。 →先生は、こども一人一人を大切に、自分ごととして教育にあたっていけるとよい。 ・多様なニーズに応じた学びの場の充実について <ul style="list-style-type: none"> →担任、特別支援教育コーディネーター等関係者同士、親同士など、こどものことについて語る場が大切である。語り合う際は、こどもの具体的な姿で語り合うことが有効である。場合によっては、こどもについて聞くより、実際に見る方が有効なこともある。 →本人、家族、学校の思いや方向性が違ってはいけない。 ・早期からの切れ目のない支援体制の充実について <ul style="list-style-type: none"> →ひきつぎや申し送りをどこまでしていくのか考える必要がある。例えば、もういいだろうと支援をやめた人で、就労の際に困ることがある。 →本人の身にならない支援は無意味である。個別の支援計画を具体的にしていけるとよい。本人が、自身の個別の支援計画の内容を語るができる(自己理解)ようになることが大切である。 →18歳を見据えて、将来につながる支援を考えていきたい。 	
	※特記事項・・・特になし	